

学校評価書

学校名(東温市立拝志小学校)
令和7年2月12日

- 1 学校の教育目標 気づき、考え、よく動く児童の育成
2 経営の基本方針 地域・保護者と共に歩み、安全・安心でぬくもりのある学校づくりを進め、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を図る。(評価・・・4:達成 3:ほぼ達成 2:達成されていない 1:改善が必要)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○ 考察 ● 改善方策	学校関係者評価委員の評価
	太字：重点項目		教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	いじめを許さない毅然とした指導と、不登校への予防的取組に努めた。	3.6	3.8	3.5	○「いじめ・不登校への対応」は、昨年度よりも高い評価となっている。全教職員が、それぞれの視点から児童の様子を注意深く見守り、情報共有をしながら支援・指導をしているからだと考え。 ○「基本的生活習慣の定着」では、運営委員会を中心に、地域を巻き込んだ挨拶運動「あいさつオリンピック」を行った。「地域の方への挨拶をよりよくし、挨拶の輪を広げたい」という児童の思いから、地域の見守り隊の方に協力していただき、挨拶週間中、挨拶がよくなっている登校班に「ハイルンカード」を配付していただいた。このような活動を通して、相手意識をもって挨拶する児童が増えてきている。 ○毎月行っている基本的生活習慣をチェックする「にこにこ貯金」は、児童だけでなく、保護者も、よりよい生活習慣を意識するきっかけとなっている。 ●挨拶は、する児童としない児童の二極化の解消が課題である。挨拶が苦手な児童も、日によって少し声が出ている時もある。そういう時を見逃さず褒めるようにするなど、粘り強く取り組んでいく。 ●月に一回は「生徒指導部会」を行い、配慮を要する児童の情報交換、ルールの確認をしていく。そこで話し合った全校児童に徹底したい指導内容は、生徒指導主事が、「全校給食」の場などで直接児童に伝えることで、指導のずれをなくすようにしていく。	・登校の挨拶は、高学年よりも低学年の児童がよくできている。集合場所では、出発する前に登校班で整列し、全員で挨拶をしてから、1列に並んで登校するようにしている。朝一番に声を出すことで、元気に学校に行ってくれるようになってほしい。これからも毎日継続して行いたい。 ・「あいさつオリンピック」で「ハイルンカード」を配付することで、自分から進んで挨拶をする児童が増えた。このような活動を学期に一回程度したり、予告無しでしたりすると思う。 ・朝の挨拶では、下を向いている児童が多いが、学校に行くと、よく話してくれる。気軽に挨拶ができる方法を考えてみたい。
	基本的生活習慣の定着	気持ちのよい挨拶や、早寝・早起き・朝ご飯などの基本的生活習慣の定着に努めた。	3.4	3.4	3.0	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・一人ひとりに個別に対応できるという小規模校のよさを生かし、児童を育てていってほしい。 ・グループ発表などを重ねるうちに積極的に発言する気持ちが育つと思う。学校運営協議会では、6年生がグループで話し合ったことを、その場でまとめて、分かりやすく発表することができていた。大勢の前で発表する機会を、今後も設けるようにすればよい。
	児童理解の促進	児童情報を共有し、児童理解に基づく教育相談、教育環境の整備に努めた。	3.6	3.6	3.3	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・一人ひとりに個別に対応できるという小規模校のよさを生かし、児童を育てていってほしい。 ・グループ発表などを重ねるうちに積極的に発言する気持ちが育つと思う。学校運営協議会では、6年生がグループで話し合ったことを、その場でまとめて、分かりやすく発表することができていた。大勢の前で発表する機会を、今後も設けるようにすればよい。
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	学習状況に対応した学習指導内容・方法を工夫し、基礎・基本の充実を図った。	3.6	3.7	3.5	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・一人ひとりに個別に対応できるという小規模校のよさを生かし、児童を育てていってほしい。 ・グループ発表などを重ねるうちに積極的に発言する気持ちが育つと思う。学校運営協議会では、6年生がグループで話し合ったことを、その場でまとめて、分かりやすく発表することができていた。大勢の前で発表する機会を、今後も設けるようにすればよい。
	家庭学習の充実	宿題の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力により、家庭学習の習慣が定着するように努めた。	3.3	3.3	3.1	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・一人ひとりに個別に対応できるという小規模校のよさを生かし、児童を育てていってほしい。 ・グループ発表などを重ねるうちに積極的に発言する気持ちが育つと思う。学校運営協議会では、6年生がグループで話し合ったことを、その場でまとめて、分かりやすく発表することができていた。大勢の前で発表する機会を、今後も設けるようにすればよい。
	協働的な学びの充実	協働的な学びの場づくりを工夫し、主体的に考え、学びを深めるよう努めた。	3.7	3.8	3.4	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・一人ひとりに個別に対応できるという小規模校のよさを生かし、児童を育てていってほしい。 ・グループ発表などを重ねるうちに積極的に発言する気持ちが育つと思う。学校運営協議会では、6年生がグループで話し合ったことを、その場でまとめて、分かりやすく発表することができていた。大勢の前で発表する機会を、今後も設けるようにすればよい。
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	思いやりの心を育み、よりよくともに生きようとする児童の育成に向けて、道徳教育の充実を努めた。	3.7	3.8	3.6	○研究授業を通して、道徳の授業づくりについて全校で取り組むことができた。道徳教育は授業を充実させることも大切だが、児童は大人の姿を見て学ぶことも大きいと考える。我々教師が、挨拶や言葉の使い方等一つ一つの行動を意識していきたい。 ○全校給食や全校でのレクリエーションなど、異学年で交流する機会が増えて、児童はとても喜んでいて、休み時間にも一緒に遊ぶ姿が多く見られ児童も学年を超えた人間関係づくりができてきている。教職員全員で全児童を見守る機会が増えたことで、児童のよさをたくさん見つけることもできた。児童は認められる場面が多くなったことで、自己有用感も高まっている。2月の参観日に行う「なかよし遊び」には、保護者や地域の方にも参加していただくように計画しており、今後、さらに交流を深めていきたい。 ○「健康づくり・体力づくり」では、自校のプールが使えず、時間等の制限が大きかったが、児童は目当てをもって水泳学習や放課後水泳練習に意欲的に取り組み、体力を高めることができた。運動会やマラソン大会等では、高学年の児童が低学年の児童の手本となる姿が多く見られた。体育に苦手意識がある児童も、運動に親しもうとする態度が育っている。 ○「食育の充実」が昨年度よりも高い評価になっている。今年度は全校給食を実施することができた。縦割り班によるグループに教職員も加わり、毎日、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく給食を食べている。また、給食主任を中心に全教職員が共通理解を図って、一貫性のある指導をすることもできた。フリー参観日で保護者に全校給食の様子を参観してもらったこともよかった。 ●インフルエンザなど感染症の拡大状況を見ながら、全校給食を進めていく。児童の安全を一番に考え、柔軟な対応を心掛けていく。	・3～6年生は、外部講師に来ていただき「生理の授業」を行った。男子も一緒に生理のことを学ぶことができたのが、とてもよかった。 ・異学年活動では、児童が物おじせず自己紹介をしたり、ゲームを進めたりすることができていた。人前で表現する力が育ってきている。 ・拝志小学校の特色である全校給食は、他の学年との仲が、より深まっていくと思う。 ・全校給食に参加した際、児童が給食の片付けの仕方などを丁寧に教えてくれた。見守り活動で児童と接しているが、別の一面を見ることができた。 ・フリー参観日で全校給食の様子を参観した際、高学年の児童が低学年の児童に優しく接する姿を見て感心した。児童に思いやりの心が育っていると感じた。
	仲間づくり・集団づくり	異学年活動やなかよし遊びを実施し、学年を超えた関わりの中で、人間関係づくりを推進した。	3.7	3.7	3.6	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・3～6年生は、外部講師に来ていただき「生理の授業」を行った。男子も一緒に生理のことを学ぶことができたのが、とてもよかった。 ・異学年活動では、児童が物おじせず自己紹介をしたり、ゲームを進めたりすることができていた。人前で表現する力が育ってきている。 ・拝志小学校の特色である全校給食は、他の学年との仲が、より深まっていくと思う。 ・全校給食に参加した際、児童が給食の片付けの仕方などを丁寧に教えてくれた。見守り活動で児童と接しているが、別の一面を見ることができた。 ・フリー参観日で全校給食の様子を参観した際、高学年の児童が低学年の児童に優しく接する姿を見て感心した。児童に思いやりの心が育っていると感じた。
	健康づくり・体力づくり	健康的な生活への実践力を培う健康教育を推進した。	3.7	3.6	3.3	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・3～6年生は、外部講師に来ていただき「生理の授業」を行った。男子も一緒に生理のことを学ぶことができたのが、とてもよかった。 ・異学年活動では、児童が物おじせず自己紹介をしたり、ゲームを進めたりすることができていた。人前で表現する力が育ってきている。 ・拝志小学校の特色である全校給食は、他の学年との仲が、より深まっていくと思う。 ・全校給食に参加した際、児童が給食の片付けの仕方などを丁寧に教えてくれた。見守り活動で児童と接しているが、別の一面を見ることができた。 ・フリー参観日で全校給食の様子を参観した際、高学年の児童が低学年の児童に優しく接する姿を見て感心した。児童に思いやりの心が育っていると感じた。
	食育の充実	給食を通して、好き嫌いなく食べるなどの食に関する指導を推進した。	3.7	3.6	3.4	○「基礎・基本の定着」は、1人1台端末を使い、個に応じた指導の工夫を行った。また、朝の学習時間「拝志タイム」では、「eスタ」を利用して新聞を読み、要約させる等の学習をすることで、児童の読解力や情報活用能力が高まっている。 ○市教研の取組を通して、本番までに積み重ねてきた実践・研究は確実にプラスになっていると実感した。他校の先生方との研究協議で有意義な意見交流ができたので、日々の実践に生かすようにする。 ○話し合い活動を中心とした「ハイルンタイム」では、校内研修を通して学年ごとの取組を共有することができた。「ハイルンタイム」をブラッシュアップすることで、児童は友達と一緒に学ぶことのよさを実感し、学習の意欲化につながった。 ○自己評価、他者評価、ポイントを示して振り返りを行う等、効果的な「振り返り」について継続して研究することで、課題であった「振り返り」の時間の確保も改善してきている。 ●1人1台端末を使った家庭学習の取組を進めているが、端末の不具合が出ており十分活用ができていない。状況を見ながら、ICTとアナログを柔軟に使用して、学習の充実を目指す。	・3～6年生は、外部講師に来ていただき「生理の授業」を行った。男子も一緒に生理のことを学ぶことができたのが、とてもよかった。 ・異学年活動では、児童が物おじせず自己紹介をしたり、ゲームを進めたりすることができていた。人前で表現する力が育ってきている。 ・拝志小学校の特色である全校給食は、他の学年との仲が、より深まっていくと思う。 ・全校給食に参加した際、児童が給食の片付けの仕方などを丁寧に教えてくれた。見守り活動で児童と接しているが、別の一面を見ることができた。 ・フリー参観日で全校給食の様子を参観した際、高学年の児童が低学年の児童に優しく接する姿を見て感心した。児童に思いやりの心が育っていると感じた。
特別支援教育	特別支援教育の充実	配慮を要する児童についての共通理解を図り、きめ細かい学習支援に努めた。	3.5	3.6	3.5	○「特別支援教育の充実」は、昨年度よりも高い評価となっている。特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の支援が必要な児童に対して、学級担任、生活支援員、専科教員等が、情報を共有しながら連携して支援をしたことで、児童が安心して学校生活を送ることができた。 ○学習面や行動面で気になる児童は、保護者の思いや願いを十分聞き、一緒に児童を育てていくという姿勢で支援をしていることが、信頼関係を築くことにつながっている。 ●入学生児童や進学する児童が少しでも抵抗なく次のステップに進めるように幼小中の連携を丁寧に進めて、切れ目なく支援していく。	・中学校に行くと、大人数に戸惑ったり、なじめなかったりと環境の変化についていけない児童もいる。小学校と同じようにするのは無理だが、何かサポートができるように協力したい。
	登下校の安全確保	見守り隊活動などによる、登下校の安全確保に努めた。	3.6	3.8	3.8	○地域の見守り隊の方々や協力しながら見守り活動を行うことで、児童は安全に登下校をすることができた。危険箇所や気になる児童の情報交換も密に行うことができ、未然にトラブルを防止することにもつながっている。また、多くの地域の見守り隊の方が、学校行事に参加していただいたり、ゲストティーチャーとして授業に参加していただいたりしているので、保護者や児童の信頼も大きい。年度末には、見守り隊の方との感謝の会を設け、日頃の感謝の気持ちを直接伝える予定である。 ○1月に「防災週間」を設け、全学年共通の防災学習を行った。今まで行っていた避難訓練の見直しを図り、児童も教職員も自分ごととして取り組む避難訓練を計画した。保護者にも避難訓練の様子を学校だより等で伝えることで、家庭でも防災について考えていただくように努めた。 ●今年度の取組を踏まえて、来年度は地域の方と一緒に防災学習を行ったり、地域と合同で行う避難訓練をしたりして、自分で考え、自分の命は自分で守る児童を育てたい。また、拝志地区全体の防災の力が高まるように連携を図っていく。	・登下校時の見守り活動で、児童が名前を呼んでくれたり、学校の話をしてくれたりするとうれしい。これからも見守り活動を続けていきたい。 ・県道の交通量が増えている。登下校の際、一列で歩くように声を掛けていきたい。 ・最近では「見知らぬ人には挨拶しない」という話もよく耳にするが、児童には、通りすがりの地域の人にも進んで挨拶するようになってほしい。
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	地域人材を生かしたり、運動会、奉仕作業等の行事運営をPTAや地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域と共にある学校づくりに努めた。	3.8	3.7	3.7	○12月の学校運営協議会(未来を語る会)は、6年生の児童が全員参加し、地域の方や保護者と一緒に熟議を行った。児童が直接地域の方の思いを聞いたり、自分の意見を伝えたりすることで、学校や地域を自分たちでよりよくしていくという意識が高まった。また、地域や学校のよさを再発見する機会にもなった。来年度以降も、児童が参加する学校運営協議会を定期的に開催していきたい。 ○学校運営協議会の委員の方には、行事や参観授業に積極的に参加していただき、児童の活動の様子をよく見ていただいた。児童や保護者との信頼関係もできており、学校と家庭、地域とのパイプ役にもなってくれた。また、常に学校をよりよくするためにどうすればよいかを考え、気付いたことはすぐに言っていたりしており、学校運営の改善につながっている。また、PTAも地域と協力して運動会準備や片付け、いのこづくり、廃品回収など、熱心に活動した。 ○ホームページや学校だよりを楽しみにしている保護者や地域の方の声をよく聞く。児童の様子や学校の教育活動など、できる限り新鮮な情報を速やかに伝えられるように努めている。 ●絵や読書感想文、自由研究などの児童の作品を、学校だより等に掲載してほしいという意見をいただき、1月の学校だよりでは、「えひめこども美術展、読書感想文愛媛県コンクール」で賞に選ばれた作品を掲載した。今後も児童のよさを、より多く発信していくようにする。	・拝志小学校は、地域・家庭・学校が一体となってつくりあげているところがすごくいいと思う。交流は今後もどんどんやっていきたい。 ・12月の学校運営協議会(未来を語る会)で、6年生の発表を聞き、こんなにも真剣に拝志のことを考えてくれたことに胸を打たれた。今度は我々大人が行動して、児童や地域を巻き込んでいろいろと変えていきたい。 ・交流を通して児童と保護者、お互いのよさを発見しやすく、評価のプラス面の意見が以前より多くなっていると感じた。触れ合う機会が多いと、お互いをよく知ることができると感じた。 ・保護者だけでなく地域の人も多く参加して、学校の様子をよく知ることができるような行事が増えればよい。
	情報発信	校報や学年だより、ホームページなどによる情報発信に努めた。	3.6	3.5	3.6	○12月の学校運営協議会(未来を語る会)は、6年生の児童が全員参加し、地域の方や保護者と一緒に熟議を行った。児童が直接地域の方の思いを聞いたり、自分の意見を伝えたりすることで、学校や地域を自分たちでよりよくしていくという意識が高まった。また、地域や学校のよさを再発見する機会にもなった。来年度以降も、児童が参加する学校運営協議会を定期的に開催していきたい。 ○学校運営協議会の委員の方には、行事や参観授業に積極的に参加していただき、児童の活動の様子をよく見ていただいた。児童や保護者との信頼関係もできており、学校と家庭、地域とのパイプ役にもなってくれた。また、常に学校をよりよくするためにどうすればよいかを考え、気付いたことはすぐに言っていたりしており、学校運営の改善につながっている。また、PTAも地域と協力して運動会準備や片付け、いのこづくり、廃品回収など、熱心に活動した。 ○ホームページや学校だよりを楽しみにしている保護者や地域の方の声をよく聞く。児童の様子や学校の教育活動など、できる限り新鮮な情報を速やかに伝えられるように努めている。 ●絵や読書感想文、自由研究などの児童の作品を、学校だより等に掲載してほしいという意見をいただき、1月の学校だよりでは、「えひめこども美術展、読書感想文愛媛県コンクール」で賞に選ばれた作品を掲載した。今後も児童のよさを、より多く発信していくようにする。	・拝志小学校は、地域・家庭・学校が一体となってつくりあげているところがすごくいいと思う。交流は今後もどんどんやっていきたい。 ・12月の学校運営協議会(未来を語る会)で、6年生の発表を聞き、こんなにも真剣に拝志のことを考えてくれたことに胸を打たれた。今度は我々大人が行動して、児童や地域を巻き込んでいろいろと変えていきたい。 ・交流を通して児童と保護者、お互いのよさを発見しやすく、評価のプラス面の意見が以前より多くなっていると感じた。触れ合う機会が多いと、お互いをよく知ることができると感じた。 ・保護者だけでなく地域の人も多く参加して、学校の様子をよく知ることができるような行事が増えればよい。
特色ある学校づくり	学校、家庭、地域総掛かりで取り組む共に学ぶ授業づくり	家庭・地域を巻き込んだ行事や体験活動、授業を企画・運営するなど、共に学ぶ授業づくりに努めた。	3.6	3.2	3.2	○地域コーディネーターを中心に、多くの地域の方や保護者に協力していただき、地域や保護者と共に学ぶ体験活動や授業が充実してきている。児童にとっては、またとない学びの機会となっており、とてもありがたい。 ○地域連携協働活動の人材活用表一覧や実践事例まとめなどを作成した。次年度以降も、持続可能で、より充実した活動につながることを考えている。 ●キャリア教育の一環として、親世代がどんな仕事をしているか児童に授業をしたいという保護者の声があった。「将来、拝志を支える大人になってもらいたい。親の仕事や地域活動を通して学んでもらいたい。」という熱い思いが伝わってきた。保護者や地域の人に呼び掛けて、ゲストティーチャーとして授業をしていただくことを検討していく。	・保護者や地域の方の仕事について学習することは、地域を盛り上げるためにもいいことだと思う。親や地域の方の仕事内容を子どもたちが知る機会をぜひ考えていただきたい。地域も協力したい。 ・地域にのけこんで楽しそうな顔がよく見られる。小規模校ならではの楽しさを感じる。 ・3年生との交流会で、ゲストティーチャーとして児童と一緒にした「ろくむし」が、今年一番楽しかった。児童と勉強したり、遊んだりすることで、元気をもらう。交流会の後も、昔の遊びを児童がしていたと聞き、うれしく思った。
	ICTの有効活用	プログラミング的思考を育成するための実践や、タブレット端末や電子黒板等整備された機器を活用するなど、ICT機器を活用し教育効果を高めるよう努めた。	3.7	3.8	3.3	○総合的な学習の時間に行っているドローンを使ったプログラミング学習やクラブ活動でのプログラミングの取組、1人1台端末を使った学習等、ICTを道具として効果的に使う研修を進めており、児童の学習に対する意欲の向上が見られ、個々のICT活用能力も向上している。 ○地域コーディネーターや区長さんに声を掛けていただき、年2回校内の草刈りや剪定を行った。学校のためならと地域の方が気持ちよく動いてくださっていることに感謝したい。 ●1人1台端末の使い方のルールを定期的に確認し、学習の道具として児童全員が安全に使えるように配慮していきたい。	・参観日で授業の様子を見ると、児童は1人1台端末を上手に使いこなしていると思う。今後も使い方に気を付けて技能を身に付けてほしい。 ・体育館の長寿命化耐久工事が終わり、とてもきれいになった。来年度は150周年も控えている。施設・設備を大切に使用してほしい。
施設・設備の充実	学習・生活環境充実への取組	潤いと安らぎをもたらす学校教育環境の整備と美化に努めた。	3.5	3.8	3.5	○総合的な学習の時間に行っているドローンを使ったプログラミング学習やクラブ活動でのプログラミングの取組、1人1台端末を使った学習等、ICTを道具として効果的に使う研修を進めており、児童の学習に対する意欲の向上が見られ、個々のICT活用能力も向上している。 ○地域コーディネーターや区長さんに声を掛けていただき、年2回校内の草刈りや剪定を行った。学校のためならと地域の方が気持ちよく動いてくださっていることに感謝したい。 ●1人1台端末の使い方のルールを定期的に確認し、学習の道具として児童全員が安全に使えるように配慮していきたい。	・参観日で授業の様子を見ると、児童は1人1台端末を上手に使いこなしていると思う。今後も使い方に気を付けて技能を身に付けてほしい。 ・体育館の長寿命化耐久工事が終わり、とてもきれいになった。来年度は150周年も控えている。施設・設備を大切に使用してほしい。